2012.6.1/Vol.66

十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第66号

新渡戸稲造生誕150年 志を継ぐ未来への光に

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
プロジェクト未来遺産2011
稲生川開削と三本木原開拓の志を活かし、共創郷土の伝統を未来に

2011年12月19日登録「太素の水プロジェクト」活動拠点

一本木沢ビオトープ

稲生川せせらぎ水路

太素塚・新渡戸記念館

太素の水プロジェクトの活動の一つ
寺子屋稲生塾

新渡戸稲造は今から150年前、不毛の台地・三本木原（現在の十和田市を含む地域）を稲の育つ緑の地に生まれ変わらせようと、先人たちが川を引き、まちをつくる開拓の一大事業に命をかけている真っ只中、盛岡に生を受けました。人工河川は、1859年（安政6年）に念願かなって上水を果たし、稲生川（いなおいかわ）と命名され、1862年（文久2年）に誕生した稲造は、稲生川の実りである稲穂にちなみ、幼名を稲之助と名づけられました。稲造の誕生は、苦難に満ちた開拓に力を尽くしていた祖父・父・兄ら一族にとって希望の光でした。そしてその力の限り努力する父祖の姿は、後に稲造が様々な壁を乗り越え世界に平和の新境地を築こうと努力し続ける支えとなりました。

昨年末、十和田市の「太素の水プロジェクト」が、日本ユネスコの未来遺産※に登録されました。十和田の未来遺産運動は、先人たちの開拓精神とその志を受け継いだものであり、稲造の武士道精神につながるものです。稲生川は、私たちの地域にとって羅針盤のようなもので、そこに根付いた精神や歴史を振り返ることで、自分たちの進むべき方向を示してくれます。地域の宝を守ろうと地道に活動してきた人々の日々の努力が正当な価値を得たことは、大変嬉しく、私たちにとって大きな自信となりました。今後、未来を切り拓く確かなエネルギーの源として、助け合いながら活動を続け、100年後の未来にも同じく誇れる地域を残せるよう努力して行きたいと思います。そしてそれはまた、日本復興の一助に必ずやつながるものとなるでしょう。

震災復興から立ち上がり、未だ多くの問題を抱えながらも前を向いて歩き出した日本、その道もまた険しく困難なものですが、私たちは皆で少しずつ譲り合い、協力し合い、乗り越え、未来に向かって共に一歩ずつ進んで行くことができればと思います。

※未来遺産については4面をご覧下さい

稲造生誕150年記念事業 第一弾・震災後の日本の根本を築き直す土台として羽田空港から全国へ向けて情報発信

生誕150年記念「世界への架け橋展」 & 未来遺産登録記念「未来への架け橋展」

～「公」に尽す「志」を貫いた新渡戸稲造～　～不毛の台地を緑に変えた武士のツルハシ～

主催：十和田市、十和田市立新渡戸記念館　協力：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、太素の水プロジェクト　協賛：日本空港ビルデング株式会社

武士道コーナー

開拓コーナー

新渡戸稲造生誕150年記念事業の皮切りに、羽田空港第一旅客ターミナル2階出発ロビーにおいて『稲造生誕150年記念「世界への架け橋展」&太素の水プロジェクト未来遺産登録記念「未来への架け橋展」』［会期：平成24年3月11日（日）～4月11日（水）／好評につき14日（土）まで延長］を十和田市と共催しました。日本がよき未来を目指すための力として、時を経て人の心に響き、人を動かす「文化の力」でメッセージを投げかけ、日本各地と航路を結ぶ羽田空港から十和田市の情報を全国に発信する機会ともなりました。出発便を待つ多くの利用客の方々が足を留め、深く見入っている姿が見られました。十和田市への来訪者が期待されるとともに、様々な波及効果を活かし、今後更に展開して行きたいと思っております。（羽田空港は第1、第2ターミナル合わせて年間6千万人の利用があります）

平成24年4月 新渡戸常憲館長代理が新館長に就任しました　宜しくお願いいたします

この度4月1日より、父である現顧問に替わり新渡戸記念館館長ならびに太素顕彰会専務理事に就任いたしました。館長代理に就任した6年前より、管理と経営に関しての知識と十和田市の今に至るまでの歴史を広く学びながら、「世界に通ずる私たちのローカル記念館」という理念を掲げ、記念館運営に携わってまいりました。今後も地域に密着しながら世界にも未来にも活かせる活動を柔軟で「自由」な発想をもって皆さんとともに展開して行きたいと思います。ここでいう「自由」とは、ものごとを成就するためにあらゆる角度から考察し、その中から一本の道へと辿り着くプロセスのことです。皆さまとアイディアを出し合い、益々努力して行きたいと思いますので、ご支援とご協力を宜しくお願いいたします。

（十和田市立新渡戸記念館　館長　新渡戸常憲）

館長交替人事　新渡戸常憲館長代理［2006年(平成18年)から就任］が、2012年(平成24年)４月から館長に就任し新渡戸明館長［1995年(平成７年)から就任］が顧問となりました。

顧問　新渡戸　明

EVENT　開催報告

稲生川上水154年記念　太素祭

平成24年５月３日(木)～５日(土)

［共催:㈳十和田市観光協会・十和田市・十和田商工会議所・太素顕彰会］

今年も稲生川を踏破！太素ウォーク2012

雨でも人気のステージイベント

中央町内会わ組の十和田祭り唄奉納

太素祭式典での稲生大権現復活奉納

新渡戸傳翁をはじめとする開拓の先人たちの偉業をしのんで５月３日17:00から前夜祭が太素塚墓前で行われ、翌日の上水記念日・５月４日は9:30から太素例祭を開催しました。式典後、十和田市中央町内会わ組の御神輿と十和田祭り唄の奉納があり、悪天候の中でも祭りの活気が感じられました。ステージイベントを予定していた３日～４日は雨のため、タイムテーブル通りとはなりませんでしたが、十和田市出身のシンガーソングライター・桜田まことさんのコンサートをはじめ、十和田水神雷太鼓、民俗芸能発表会やお笑い、歌謡ショーなどが行われ、出演者たちはふるさとのお祭りの賑わいのため、雨の中集まってくれたお客様のためにと精一杯ステージを盛り上げていました。

太素祭式典で稲生大権現が９年ぶりに復活！

稲生大権現練習風景

５月４日の太素祭式典で９年ぶりの稲生大権現奉納を行いました。稲生大権現は明治時代中期に新渡戸家の四天王である安野家の安野為教(ためのり)氏（三本木消防組頭）が地域の青少年育成のために始められました。以来100年以上の間、太素祭はじめ三本木のお祭りで奉納されてきました。その後、後継者不足で継続が難しくなり、獅子頭も壊れ、舞われることも無く途絶えていました。本年晴山獅子舞の師匠でもある八戸市おがみ神社法霊神楽保存会松本徹会長に獅子頭の修復を依頼し、新たな継承者として当館館長が舞い手となり晴山獅子舞の方々にお囃子をお願いして奉納が実現しました。

館長はこの開拓地ゆかりの稲生大権現をぜひ次世代に伝えて行きたいという思いから、稲生大権現と師弟関係にあった晴山獅子舞の保存会（佐々木秀美会長）の方々に指導を受け、練習を続けています。今後もこの舞を大切に守って行きたいという決意で太素塚墓前で復活奉納を行いました。

今年の賞品は、新渡戸稲造生誕150年記念「太平洋のはし」

クイズ大会には新渡戸傳さんが出演！？

アメニモマケズ！
大人も子どもも
クイズに挑戦！

５月３日～５日新渡戸記念館では、新渡戸稲造生誕150年「太素祭クイズ大会・ニトちゃん検定」を館内版、太素ウォーク版、稲生川史跡めぐり版の３バージョン開催し、275名の方が参加、128名が10ポイント以上を獲得して検定合格となりました。また、その場で景品がもらえる三択クイズを桜田まことさんと演歌堂ミュージックのムードメーカー中城さつきさんの協力で舞台を使って行い、新渡戸稲造についてのトリビアクイズに雨にもかかわらず、大人も子どもも挑戦していました。また、期間中入館は完全無料で、夜間特別開館を実施し、多くの方に稲生川や新渡戸稲造について学んでいただきました。

未来遺産登録記念・新渡戸稲造生誕150周年　地域博物館企画

未来遺産十和田　ふるさと見本市

１００年後の未来に残したいもの・１００年後の子どもたちに伝えたいもの

十鉄ラストラン写真とグッズの紹介

きみがらスリッパの紹介

展示期間：平成24年５月３日（木）～６月30日（土）
主催：十和田市立新渡戸記念館　協力：「太素の水」保全と活用連合協議会　企画・構成：Kyosokyodo（共創郷土）

太素祭初日から「未来遺産登録記念・新渡戸稲造生誕150周年～未来遺産十和田　ふるさと見本市～」をオープンしました。ふるさと見本市は、ふるさと十和田への思いを大切にする市民によびかけ２年前からはじまり、太素祭を活動紹介の機会として活用いただき、広く市民の皆様にバラエティー溢れる地域づくりの活動を知っていただく企画展として開催してきました。特に今年は、太素の水プロジェクトの未来遺産登録を受けて、「太素の水」保全と活用連合協議会と、市内で地域づくりを行っている団体・個人の皆様の協力で開催しました。この企画には未来遺産登録の意義を多くの人に知っていただき、その動きを地域全体に活かして行こうという思い、そして、同じように地域のために努力している人たちと、今後の地域の未来、そして子どもたちの未来につながるような、より深く広く大きな視点に立った地域づくりの方向性を考えることができればとの思いが込められています。見本市第一部として未来遺産登録となった「太素の水」の活動［①一本木沢ビオトープ協議会②稲生川せせらぎ活動委員会③新渡戸記念館ボランティアKyosokyodo（共創郷土）］第二部として、稲生川に限らず様々な分野で地域のために頑張っている団体を紹介しました。ご紹介した活動は冊子にまとめ、後に活用していただけるようにしたいと考えております。

■個人協力（順不同）　沢口騏三夫氏／小笠原カオル氏／竹ケ原トミ氏／赤城ミチ氏／中沢きん子氏　■団体協力（敬称略・順不同）一本木沢ビオトープ協議会／稲生川せせらぎ活動委員会／Kyosokyodo 共創郷土／「太素の水」保全と活用連合協議会／セーフコミュニティとわだをすすめる会／（特）十和田NPO子どもセンター・ハピたの／さわらびボランティアの会／「アルタ・ノヴァ」の会／国際ソロプチミスト十和田／道の駅とわだ・とわだびあ／十和田ふるさとガイドネットワーク／十和田湖自然ガイドクラブ／十和田湖・奥入瀬観光ボランティアの会／十和田ボランティアガイドの会／ＮＰＯ法人十和田国際交流協会／晴山獅子舞保存会／十和田乗馬倶楽部／十和田バラ焼きゼミナール／AOMORI＋DESIGNPROJECT(あおもりプラスデザインプロジェクト)／十和田観光電鉄㈱／十和田市文化財保護協会／南部裂織保存会／十和田むらさき保存研究会／十和田市きみがらスリッパ生産組合／㈱パワフルジャパン十和田／フォレスト奥入瀬／ぱおり製作後継者育成活動／　ほか関係各位

※ご紹介した以外にも市内で地域づくりに尽力されている団体や組織があると存じますが、時間的な制限や、こちらの認識不足でお声がけができなかったところもあったと思います。展示期間中いつでも結構ですので、お知らせいただければ幸いです。

童門先生のことば　⑤「風度（ふうど）」を高めること

童門冬二先生の新渡戸塾基調講演から、私たちのまちづくりに大切な知恵を数回にわけてキーワードでご紹介します

童門先生は現代社会のＩＴの発達による一つの変化について次のようにお話になりました。「ＩＴの発達によって、新渡戸稲造博士が全て人間のプロセスとしてご苦労して身につけてきたこと（情報収集や分析・判断など）をコンピューター機器がかなりの部分やってしまう。そのために苦労、時間、努力が自分のもの、自分の自由になる。そこで何が起ってくるかというと、自分が生きていくために必要なモノ、サービス、人までも『選ぶ』という傾向を強める。人の上にたつべき職場の上司、教師、親までもが選ばれる存在となっている。その中でどうすればよいかというと、選ぶ人に対して“～なら”と思わせる『らしさ』（＝特性／モノ、サービスで言えばＣＩ※）を強める必要がある。『この人の言うことなら絶対信頼できる』『あの人にならついていける』といわれ、相手を感動させるようにならなければならない。この『らしさ』のことを『風度』と言う。「風度が高い」とえば家庭、職場、学校においてそれが感じられるということである。」一人ひとりが地域社会の中で自分のあるべき「らしさ」とは何かを見つめ、磨き上げることでより良い地域の土台が築かれると言えるかもしれません。

※CI＝corporate identity。企業のもつ特性を、内部的に再認識・再構築し、外部にその特性を明確に打ち出し、認識させること。コーポレート アイデンティティー。

太素の水プロジェクト
日本ユネスコ・未来遺産登録証授与式 & 第3回 稲生川市民フォーラム

登録証授与式

■日時：平成24年３月18日（日）14：00～授与式・フォーラム18：00～祝賀会　■場所：サン・ロイヤルとわだ

【主催】授与式＝公益社団法人　日本ユネスコ協会連盟　主催／フォーラム・祝賀会＝「太素の水」保全と活用連合協議会　主催
【後援】青森県上北地域県民局・十和田市・十和田商工会議所・十和田市教育委員会・㈳十和田市観光協会・十和田市農業委員会・北里大学獣医学部・稲生川土地改良区・太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館

稲生川をめぐる地域活動「太素の水プロジェクト」が昨年12月19日（月）公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の第３回プロジェクト未来遺産に登録され、平成24年３月18日（日）登録証授与式と登録記念第３回稲生川市民フォーラムが開催されました。

登録証授与式では、日本ユネスコ協会連盟未来遺産委員会委員前田耕作先生から「官民挙げないと実現しないプロジェクトがあると過去２回で経験し、太素の水のプロジェクトはまさにパブリック&プライベート・パートナーのモデルケースとして高く評価された」と講評いただき、「太素の水」保全と活用連合協議会 新渡戸会長（当館現館長）へ登録証が手渡されました。

稲生川市民フォーラムは平成５年、15年に次いで３回目であり、稲生川と共に育まれてきたこの地域をどうしたら100年後の未来により良い形で引き継ぐことができるのか、市民およそ130名と共に考えました。

フォーラム後の祝賀会にはおよそ90名が参加し、盛大に祝いました。

第３回 稲生川市民フォーラム「人と自然が共に創る郷土」～20年の市民活動をよりよい形で未来に引き継ぐために～

■基調講演①　稲生川をめぐる住民活動の未来遺産としての評価
公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 未来遺産委員会委員　前田 耕作 先生

前田先生はユネスコの原点を築いた稲造の偉大な精神を紹介するとともに、世界遺産登録40周年の今年、ユネスコの大きなテーマは「持続可能な発展」だが、それに必要なのは文化と開発発展を切り離さないことで日本ユネスコの未来遺産はその考え方の基礎を若い人たちと作りあげる運動である。これが次代へ遺産を引き渡す唯一の道という印象を持っていると語られました。具体例が稲生川の保全と活用のために人々が力を合わせて行う太素の水プロジェクトの持続的活動で、同プロジェクトが選ばれた決め手は十和田の熱意と高い理念であると指摘され、「活動の中で更に高い理念を展開され、磨き上げて再び我々に投げかけてくれると期待している。稲造を育んだ精神構造の中からこのプロジェクトが生み出されていることを今一度かみ締めて欲しい。今後もどこにもない活動を組み上げ全国のモデルとなり、復興の引き金となることを期待する」と締めくくられました。

■基調講演②　地域住民とともに歩んだ三本木原開拓150年の歴史
十和田市立新渡戸記念館　新渡戸 常憲 館長代理（現館長）

新渡戸館長は歴史をひも解き、開拓地・十和田の特徴として「太素」新渡戸傳の開拓精神に感銘し、それを受け継ぐ人々が「志」の結びつきで地域を創り上げてきたことを示しました。今後の十和田市を創るのも志を共にする人々の血縁、地縁を超えた結びつきで、プロジェクトを通し、開拓の歴史をもつ我が郷土の「人と自然が共に創る」伝統を受け継ぎ、活かし、共により良い地域の未来を創りたいと語りました。

■パネルディスカッション
コーディネーター：北里大学獣医学部　杉浦 俊弘　教授

⑴住民活動の紹介
①稲生川せせらぎ活動委員会（稲生川土地改良区　阿部 俊　主任）
②一本木沢ビオトープ協議会（同会　杉浦 俊弘　理事）
③Kyosokyodo共創郷土（同会　新渡戸 富恵　会長）
稲生塾生の発表（三本木小学校 現6年　長畑賀子さん　長畑幸子さん）

⑵第１回プロジェクト未来遺産登録地から先進地としての報告と助言
久保川イーハトーブ自然再生協議会（同会　桶田太一　研究員）

⑶総合討論での主な意見・質問事項

日本ユネスコ 盛 和春理事　地域活性化で大切なことは地域を発見すること。それが地域の自信に繋がる。今回の活動は地域に誇りが持てるのがとても良い。活動の規模より地域の実情にあっているかが重要で、100年後に伝えていけるよう、子どもやお孫さんに伝えて欲しい。もう一つは100年前の方のものを借りて使わせてもらっていると思うこと。それを良い形で返すと考えてみて欲しい。

前田先生　未来遺産のほとんどが危機に瀕している。未来遺産は未来に明るい光を投げかけるし、現在の危機に光を当てる意味も持つ。久保川の活動も生物多様性を守るものでこれはユネスコの重点課題である。一方太素の水は少しずつ視点の違う３団体が多様な組み合わせで多彩な活動を展開し、今までに無く、新たな光を投げかけている。

北里大学　小林裕志名誉教授（初回フォーラム実行委員長）　20年前私たちが始めたことがこのように継続され嬉しい。スタート時の思いは十和田市の子供が自慢できる街づくりということだけだった。活動は継続性が一番。核となる場所が大切であり、新渡戸記念館との連携は非常に良い。子どもたちが自慢できるまちづくりをしましょう！

参加者からの質問　十和田が未来遺産登録され何が変わるでしょう？

「太素の水」新渡戸会長　登録により全国に十和田と稲生川が知られ、ここに来てくれる効果があるが、何より我々の手で地域の遺産を守り伝えていくこと、それを皆で考えていくことが大切。登録は特効薬ではなく、未来は皆で創るものということを理解してほしい。

上北地域県民局 地域農林水産部 木村龍人次長　県としては農業農村整備事業において環境配慮や環境公共の取組などを行っている。

前田先生　官は担当者が数年で交代する問題があるが３団体官民力を合わせ、どの様なダイナミックな展開が可能かとの問題意識で取り組んでおり、持続的解決が可能なよう官の理解と支援をお願いする。

授与式・フォーラムの全ての記録は紙面の都合上掲載できませんでしたが、新渡戸記念館に記録がありますので、ご覧になりたい方はどうぞお越し下さい。

フォーラムコーディネーター兼パネリスト 杉浦教授の発表

久保川イーハトーブ 桶田氏の発表

フォーラムでコメントする日本ユネスコ盛理事と前田先生他パネリスト各位

祝賀会での稲生大権現奉納

わ組・祭り唄奉納

おしらせ　平成24年4月1日から新渡戸記念館の休館日が次のように変わりました
変更前　月曜日休館（月曜日が振替休日を除く祝日の場合は開館）
変更後　月曜日休館（月曜日が祝日の場合、翌日休館）

平成24年度 新渡戸記念館スケジュール

新渡戸塾

こども講座 寺子屋稲生塾 十和田市教育委員会 共催
Kyosokyodo（共創郷土）協力

全体テーマ　未来遺産十和田と新渡戸稲造生誕150年

■展示・イベント
3～4月 羽田空港展示　5月 太素祭クイズ大会
5～6月 ふるさと見本市　9～12月 新渡戸稲造展

新渡戸塾講座の詳細は市広報か新渡戸記念館ホームページをご覧下さい
www.towada.or.jp/nitobe

■講演・体験・交流（ツアー・座談会）

【一般】
講座Ⅰ　未来遺産十和田と地域づくり　5月～8月
＜8月＞国際基督教大学名誉教授　石川光男先生　講演会
「未来を創る開拓精神・未来に遺す共創都市十和田」
講座Ⅱ　今改めて学びたい稲造のおしえ　9月～12月
講座Ⅲ　郷土遺産を活かす　11月～平成25年3月
実践プロジェクト　とわだ時空調査隊

稲生塾卒業生の参加も大歓迎！

【こども】「稲生塾」6月23日（土）武士道講話　7月7日（土）行灯まつり
7月28日（土）お話し会　8月4・5日（土・日）まち探検
11月10日（土）世界と友だち　12月1日（土）書道・茶道

【稲生塾の申し込み】
★プログラムの対象：小学校4～6年生　★定員：40名　★申し込み締め切り：6月15日（金）
★申し込み先：自分の学校の先生　市教育委員会生涯学習課（TEL0176-72-2313 FAX3123）
新渡戸記念館（TEL・FAX0176-23-4430）

太素の水プロジェクト 今後のスケジュール

※予定には変更の場合がありますので各団体事務局にご確認下さい

一本木沢ビオトープ協議会 主催『親自然体験』

■7月21日（土）　ナイトハイクホタル観察会
■9月15日（土）　トンボ博士になろう
■9月30日（日）　バードウォッチング
一本木沢ビオトープ協議会 事務局：十和田市東公民館
TEL0176-24-9000　FAX9003

稲生川せせらぎ活動委員会 主催『稲生川美化＆交流活動』

■稲生川ふれあい公園・せせらぎ水路植栽活動（およそ月1回）
■8月25日（土）　稲生川ふれあい祭り
稲生川せせらぎ活動委員会 事務局：水土里ネット稲生川
TEL0176-23-5066　FAX3940

Kyosokyodo（共創郷土）協力「新渡戸塾」
詳細は左欄をご覧下さい
Kyosokyodo事務局：新渡戸記念館　TEL・FAX0176-23-4430

平成24年度「太素の水」保全と活用連合協議会　理事会・総会
6月13日（水）　17:30～理事会　18:30～総会
場所：水土里ネット稲生川　2階会議室

「太素の水」保全と活用連合協議会　事務局
十和田市立新渡戸記念館 TEL・FAX0176-23-4430

未来遺産運動

●未来遺産運動とは
100年後の子どもたちに長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための運動です。
●プロジェクト未来遺産
未来に伝えたい地域の文化・自然遺産を守る市民の活動を「プロジェクト未来遺産」として登録し、それを推進する地域を日本全体で応援する仕組みを作ります。
詳しくは日本ユネスコホームページで www.unesco.or.jp　日本ユネスコ　検索

mini NEWS

資料の寄贈

・佐々木忠一氏（十和田市）より稲生銘（版刻）1点を寄贈いただき、それを赤城表具内装店 赤城泰夫氏が軸装して寄贈いただきました。
・十和田錦鯉センター小山田惇氏より錦鯉9匹を太素塚の池に寄贈いただきました。どうぞ、美しい錦鯉の姿を見に太素塚へお越し下さい。

寄贈いただいた錦鯉

太素塚池の鯉は市民有志による『官庁街せせらぎコイの旅』実行委員会のご協力で遊泳させています。同実行委員会へのご支援ご協力をお願いいたします。（『官庁街せせらぎコイの旅』実行委員会事務局 0176－23－5066 稲生川土地改良区内）

太素塚清掃奉仕

・4月14日㈯青森県春のクリーン作戦小さな親切運動十和田支部様
・4月26日㈭十和田東ロータリークラブ様
・5月6日㈰さわやかクラブ様
・5月7日㈪十和田市老人クラブ大学通り老成会様

ありがとうございました

活動報告

▶館長就任の挨拶に三村知事を訪問

平成24年5月8日（火）就任挨拶のために館長が青森県庁の三村申吾知事を訪問しました。
訪問後三村知事からは、「ともにふるさとの元気づくりにがんばりましょう」との直筆のメッセージをいただきました。

▶顧問講演会

平成24年2月26日（日）ＪＡおいらせ青年部十和田支部結成40周年記念式典において館長（現顧問）基調講演／平成24年5月25日（金）経営者モーニングセミナー（十和田市倫理法人会）にて顧問講演

▶TBCテレビ ウォッチンみやぎ「みちのくコレクション」へ館長出演

平成24年4月20日（金）放送「ウォッチンみやぎ」“みちのくコレクション”で館長がインタビューを受け、稲生川を引いた先人たちの開拓精神、公に尽す志が新渡戸稲造を育み、未来遺産登録となった「太素の水プロジェクト」はその志を受け継ぐ活動であること、震災後の東北、そして日本にとって重要なメッセージを含んでいることなどをお話ししました。

▶平成24年度第1回太素顕彰会役員会を開催

平成24年4月20日（金）10:30から十和田商工会館5階会議室で開催し、平成24年度事業計画及び予算案を審議の上、原案通り可決しました。また「太素の水プロジェクト」未来遺産登録決定を報告しました。

▶音楽学博士・音楽評論家として館長が活躍

音楽学博士・音楽評論家としても活躍する新渡戸常憲館長が、『音楽現代』5月号［2012年4月15日（日）発売］の特別企画『奇才！鬼才！来日するイーヴォ・ポゴレリッチの世界』に評論を執筆しました。

▶収蔵資料展2012開催［平成24年4月14日（土）～4月30日（月）※会期変更］

寄贈や収集により新規に収蔵した資料を中心におよそ30点を展示し、4月14日（土）には学芸員による資料解説会を実施しました。

▶太素の水プロジェクト・寺子屋稲生塾作品展巡回中

寺子屋稲生塾（十和田市教育委員会共催）の平成23年度成果展を平成24年4月1日（日）～4月30日（月）十和田市民文化センター、5月1日（火）～5月31日（木）十和田市中央病院で開催し、書、絵画、作文作品、マイ武士道、まち探検壁新聞などを展示しました。

▶小笠原書記がデーリー東北へ執筆

デーリー東北新聞社では本年1月から、まちづくり市民グループのメンバーが市民記者として取材、執筆を担当する「市民がつくるページ」を毎月1回掲載しており、新渡戸記念館ボランティア Kyosokyodo（共創郷土）が2月23日（木）付朝刊掲載の紙面を担当し、当館小笠原純也書記が、太素塚の清掃奉仕をするKyosokyodoメンバーを取材し「四季を通じ太素塚清掃奉仕～住民が守る美しい景観～」と題して執筆しました。

編集後記　金環日食を見た。ここ十和田では場所柄リング状の輝きは見られない、いわゆる部分食であった。それにしても日本語の“日を食らう”という表現は実に面白い。小さな月がとてつもない位に大きな太陽を食べてしまうのだから。私は以前、それこそ月が太陽を全て呑み込む皆既日食を異国の地で見たことがある。あの時は快晴であった地上が真っ暗になった。かつて地上の支配者の中には天文学者に事前に皆既日食の日を調べさせて、日食にあたる日に大広場に国民を集め、さも自分がこの世を真っ暗にしたり、明るくしているかのような演出を行った人がいたらしい。つまり、まやかしを用いて世を治めたのである。時代は移り、ここ日本でも治世に躍起になっているのであるが、今の我々国民にまやかしは効果が無い。滅多な奇跡が起きない限りは…。
（十和田市立新渡戸記念館　館長　新渡戸常憲）

■ご利用案内
・開館時間：午前9:00～午後4:00
・休 館 日：毎週月曜日（祝祭日は開館）年末年始（12/29～1/3）
・観 覧 料：大学生・一般210円（団体178円）
小・中・高校生52円（団体42円）※ 団体は20名以上
十和田市民は観覧料が無料となっています

世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して
十和田市立 新渡戸記念館
Nitobe Memorial Museum
URL　www.towada.or.jp/nitobe/

発行日　2012年6月1日
編集・発行　太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031　青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax：0176-23-4430
Email：nitobemm@hi-net.ne.jp
印刷　株式会社 岩間印刷